

第 2 回

島田市まち・ひと・しごと創生市民会議

平成31年3月19日

会議要録

平成 30 年度 第 2 回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議会議要録

会議体の名称	平成 30 年度 第 2 回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議	
事務局	島田市市長戦略部戦略推進課	
開催日時	平成 31 年 3 月 19 日 (火) 13:30~15:15	
開催場所	島田市役所 4 階第 3 委員会室	
議 題	<p><報告事項></p> <p>(1) 平成 30 年度の「地方創生」に向けた取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方創生の現状 (国・市) ・地方創生推進交付金事業 <p>「ICT で人の流れを呼び込む教育・産業づくり推進プロジェクト」</p> <p>(2) 平成 31 年度の取組予定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 31 年度島田市当初予算 (案) ※地方創生関連 ・地方創生推進交付金事業 <p>「ICT で人の流れを呼び込む教育・産業づくり推進プロジェクト」</p> <p><意見交換></p> <p>テーマ「島田市の人口動向等について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年 (2018) の島田市の人口動向について ・転入転出者アンケート結果について (期間: H28.7.1~H31.1.31) ・島田市内高校卒業者の進路について <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 31 年度島田市まち・ひと・しごと創生市民会議について ・第 2 期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定について 	
出席者	<p>創生市民会議 構成員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・島田市自治会連合会 伊藤会長 ・島田青年会議所 木村理事長 (欠席) ・お母さん業界新聞 静岡版 杉本編集長 ・島田市小中学校 P T A 連絡協議会 富岡会長 ・N P O クロスメディア島田 大石理事長 (欠席) ・島田商工会議所 岩原会頭 ・島田市商工会 岡村会長 ・島田観光協会 大久保会長 ・島田市農業経営振興会 仲田会長 ・静岡県立金谷高等学校 後藤校長 (欠席) ・島田市校長会 服部校長 ・島田信用金庫 三浦理事 ・島田・榛北地区労働者福祉協議会 鈴木会長

		<ul style="list-style-type: none"> ・島田公共職業安定所 井谷所長 ・静岡県立大学（学生） 大池穂乃佳（経営情報学部3年） ・島田樟誠高等学校（生徒） 北川舞子（1年） ・島田樟誠高等学校（生徒） 杉村美桜（1年） ・島田市 染谷市長
	オブザーバー	静岡県中部地域局 絹村局長
	事務局	島田市市長戦略部戦略推進課 駒形課長
	市関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・牛尾副市長 ・濱田教育長 ・鈴木市長戦略部長

配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・島田市まち・ひと・しごと創生市民会議構成員 ・島田市まち・ひと・しごと創生市民会議席次表 ・（資料1）平成30年度地方創生に向けた取組について ・（資料2）平成31年度地方創生に向けた取組について ・（資料3）島田市の人口動向について ・（資料4）転入者・転出者アンケート結果について ・（資料5）島田市内高校卒業者の進路について ・（資料6）平成31年度島田市まち・ひと・しごと創生市民会議について
------	--

<開会の挨拶>

○市長戦略部長 皆様、御多用の所、御出席を賜り、誠にありがとうございます。
 本日の司会をさせていただきます島田市市長戦略部長の鈴木と申します。よろしく願いいたします。
 ただ今から、「平成30年度第2回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を開催いたします。

○染谷市長 皆様こんにちは。市長の染谷でございます。
 本日は御多忙の中、第2回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。
 開会にあたりまして、一言御挨拶申し上げます。

この会議は、本日が今年度第2回目の開催となります。
 前回、8月22日に開催した際には、PDCAサイクルにおける「C」の部分であります、島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証の取組について、御説明させていただきました。

さて、去る1月31日、総務省が公表した2018年の「住民基本台帳人口移

動報告」によりますと、東京圏（埼玉、千葉、東京、神奈川）は、転入者が転出者を13万9,868人上回る「転入超過」となりました。

「転入超過」の現状は、前年に比べ、1万4,338人の拡大、特に15歳から29歳の転入超過が際立ち、「東京一極集中」は、益々加速しております。人口減少、少子超高齢化への対応は、喫緊の最重要課題であると誰もが認識しておりますが、構造的課題であるがゆえ、即効性がある取組は難しい状況にあります。

本市の転入・転出の状況につきましては、平成26年から平成29年の4年間の住民基本台帳データの集計によりますと、平成28年を除き、転出超過となっております。

年齢別に詳細を見てみますと、全国的傾向と同様に、15歳から29歳の転出超過が際立っておりますが、30代と9歳以下の年代においては、転入超過となっており、このことは、子育て世代の転入として考えることができ、これまで市が重点的に取組んできた子育て施策の効果とも考えられます。今後におきましても、引き続き、地域の魅力を感じてもらい、一旦、島田を離れたとしても、様々な経験の後、「将来、島田に戻りたい、島田で就職して活躍したい」と思われる環境を整備してまいりたいと考えております。

さて、本日の会議では、平成30年度中に地方創生交付金を活用して実施してまいりました事業の成果や、平成31年度の市の地方創生関連予算（案）について御説明を申し上げた後、会議の後半では、皆様からの活動報告や、意見交換をする時間を設ける予定となっております。

限られた時間ではございますが、皆様から忌憚(きたん)のない御意見や御提言をいただき、本日の会議が有意義なものとなりますよう皆様のお力添えをお願い申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

本日は、よろしくお願いいいたします。

○戦略推進課長 ありがとうございます。

本日の会議の出席者につきましては、出席者名簿を配付しておりますので、御確認いただきたいと思います。

なお、本日は、静岡県立金谷高校 後藤校長、クロスメディアしまだ 大石理事長、島田青年会議所 木村理事長が所用により欠席となっておりますので、お知らせいたします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

議事を進めるにあたり、「島田市まち・ひと・しごと創生市民会議 設置要綱」第3条の規定に基づきまして、議長を染谷市長にお願いいいたします。

<議事（報告事項）（1）>

- 染谷市長 それでは、議長を務めさせていただきます。皆様、よろしく申し上げます。
まず、はじめに（1）「平成 30 年度地方創生に向けた取組について」、事務局から説明をお願いします。
- 事務局 **資料 1**の説明
地方創生の現状及び地方創生推進交付金事業「ICT で人の流れを呼び込む教育・産業づくり推進プロジェクト」に基づく、平成 30 年度事業実施状況について説明
- 染谷市長 それでは、続きまして報告事項（2）「平成 31 年度地方創生に向けた取組予定について」事務局から説明をお願いします。
- 事務局 **資料 2**の説明
平成 31 年度島田市当初予算（案）及び地方創生推進交付金事業「ICT で人の流れを呼び込む教育・産業づくり推進プロジェクト」に係る平成 31 年度事業実施計画案について説明
- 染谷市長 ただいまの説明について、質疑、御意見等はございませんか。
- A 構成員 資料 3 の 2 ページ「日本で、世界で稼ぐ産業の創出」とあるが、これは、総合戦略の内容（交通拠点を活かした周辺基盤整備：国道 1 号島田金谷バイパス及び国道 473 号の 4 車線化、国道 473 号バイパスの整備促進）とリンクしているか。
- 市長戦略部長 事業的には総合戦略とはリンクしている。
- A 構成員 国道 473 号の整備はいつ終わるのか。地元への説明の必要もある。
- 染谷市長 国道 473 号の整備については随時検討している。国から県への補助内容も変わっており、現在のところ県からはいつまでに完成するといった話は聞いていない。
- OB 構成員 資料 1 の 17 ページ、年代別で 20 代転出が目立つものの、30 代で戻ってくる人が多い。若者の故郷回帰の傾向があるのではないか。
平成 31 年度予算でも新規事業をたてているが、出て行った大学生たちに個別に声をかける、文書を送付するなどして島田で暮らすことの喜びを教えたらどうか。また高校生本人に直接アピールするような事業はどうだろうか。

- 市長戦略部長 17 ページの補足だが、平成 30 年は転入超過であり、近年はこの傾向になっている。また、高校生が市内企業を訪問し、ラジオ番組を作るなど地元への愛着を育てているところである。
- 染谷市長 UIJ ターン説明会の開催や子育てのまちを謳ったポスターの作成等を実施し、根っこで島田への愛着を育てている。
島田市には5つの高校があるので、まちづくりに関わってもらうことで帰ってくる人、残る人をキャッチしたい。
- A 構成員 農業分野では人口減少よりも激しく人が減っている。資料2の2ページでは、農林業分野で新規事業をたてているが、新規就農者は中々続かず、担い手は離れていってしまう一方である。農林業において、将来そのようなビジョンを持っているか。
- 染谷市長 (この会議では農林業担当者がいないため、今は答えられない。)
島田市ではがんばる認定農業者支援制度や農地中間管理機構関連農地整備事業等、色々と手を尽くしてはいる。様々な形で新規就農、稼げる農業を目指して行きたい。
- C 構成員 女性のほうが東京への転出が多いのか。30 代以降両親の高齢化に伴い戻ってくる人とかもいるのではないだろうか。
また、大学生向けに地元企業のバスツアーを開催したら、地元でこんな良い企業があるとは思わなかったと言われた。今後も市内企業の PR を全面的に行って行きたい。それと同時に外国人人材の受け入れについても研修等を実施するなど、力を入れていきたいと考えている。
- 事務局 全国的な傾向としては、女性の東京進出が多くなっているが、島田市の転出については、男性の方が若干多くなっている。
- C 構成員 外国人の人口は変わっているか。
- 事務局 資料3の1ページのとおり、年々増加し、ここ最近は転入超過が続いている。
- C 構成員 企業は人手不足で、工場を回すために人手が必要である。これから外国人材を受け入れるとして、受け入れ方については、行政に任されている。企業、その周りの市民がどう考えるのか検討を進めてほしい。
- 染谷市長 外国人人材の受け入れについては、企業の人手不足の解決を図るとともに、受入をする地元の理解が必要であり、慎重に進めていかなければならないと

考えている。

- D 構成員 資料2の2ページにて、デジタルマーケティング施策推進事業と移住就業支援事業は具体的にどのような計画をたてているか。
- 事務局 デジタルマーケティング施策推進事業については、観光情報を効率よく発信するための施策であり、情報が誰に届いているのか、本当に情報を必要としている人に情報が届けられているのか、閲覧者データなどで効果を確認しながら次の手を打っていく。例えば、動画の国別の視聴者数や属性、その人達が何に興味があるかなどのデータを取得し、島田を訪れてくれそうな人が良く見るサイトに広告を打ったり、ターゲットを明確にして観光戦略を立てたりする。ゆくゆくは観光に限らず様々な用途で使いたい、まずは観光からということである。
- 移住就業支援事業について、東京一極集中の是正に向け、国が実施する事業である。23区から地方へ移住し中小企業に就職する者に対し、移住に必要な経費の補助として最大100万円が交付されるものである。
- 染谷市長 デジタルマーケティング施策推進事業について、島田市の観光情報を誰が見たか、どこに届けるかを考えていく。島田市に関心のある人達がどのような人たちなのかを調査し、更にこの情報を利用して効率的なPRを行う。
- 今後は「作る」に3割、「情報を届ける」に6割、「効果の測定」に1割を投入していこうと呼びかけている。我々はこれを「サーロインの法則」と命名し、成果をあげられるよう取組を推進していこうと考えている。
- D 構成員 具体的なツールは何か。
- 染谷市長 動画を配信したいと考えている。島田の桜や茶葉の映像を8Kで発信する。
- E 構成員 資料2の2ページ地域産業の競争力を高めて稼ぐとあるが、この対象は既に存在する企業のことなのか、企業誘致ということか。魅力なのは仕事が選べるまちである。
- 事務局 総合戦略中12～13ページにまとめたものが記載されている。今ある企業を高めることと、企業誘致を行って高めること、両方を意識している
- 染谷市長 ありがとうございます。それでは、時間の関係もありますので、ここで議事に対する質疑、意見等の時間は終了させていただきたいと思えます。
- 染谷市長 続きまして、4の「意見交換」に移りますが、今回は「島田市の人口動向等について」というテーマを設けさせていただきました。

はじめに、事務局から資料3「島田市の人口動向について」、資料4「転入・転出者アンケート結果について」及び資料5「島田市内高校卒業者の進路について」を御説明させていただきます。その後、皆様と意見交換をさせていただきたいと思いますが、報告に対する感想、御提案等、自由な意見交換の時間としますので、積極的な御発言をお願い致します。それでは、まず、事務局から説明をお願いします。

- 事務局 資料3・資料4・資料5の説明
島田市の人口動向等について説明した。
・平成30年（2018年）の島田市の人口動向の説明
・転入転出者アンケート結果（H28.7.1～H31.1.31）の説明
・島田市内高校卒業者の進路についての説明
- 染谷市長
それでは、ここからは意見交換の時間としたいと思いますが、今の3つの報告についての意見でも構いませんし、皆様の個々の活動についての報告でも構いませんので、自由にご発言いただければと思います。
- OF 構成員
私には小学校6年生の娘がいるのだが、根っこで地域に愛情を持つというのは大事なことであり、家庭、学校、地域でいかに育てるかが肝心だと思う。私の地元では、年に1回親の教育のための講習会も行っている。地域との係わり合いも大切で、子どもたちは地元の伝統文化を通じて、地元のよさを感じている。大人になってくると物事の見方も変わってくるものだが、その時にふと思い出すような故郷でありたい。
- G 構成員
樟誠高校では、1年生のころから就職について考えている。ただ、島田市内にどのような仕事があるのかが分からない。例えば、農業は大変そうだな、ということしか分からない。島田市内にどんな仕事があるのか、知る機会があれば良いな、と考えている。
- H 構成員
島田市は交通の便が良い、と言っているが、バスの量が少なく移動が大変だと感じている。
- I 構成員
20代前半の転出超過に対し、「ふるさと愛」と言っていたが、せっかく高校生にふるさと愛を育てても、一度地元を出てしまうと地元の情報は全く入ってこない。大学で島田市を出てしまっても情報が受け取れるようにしたらどうか。静岡県では、「ふじのくにパスポート」というものに取り組んでおり、LINEで静岡情報が分かるようなツールを作成している。
- J 構成員
労働力人口の減少も今後の課題となる。島田公共職業安定所管内の有効求人倍率が1.46であり、県の1.69、全国の1.63と同様に人手不足の状態であ

る。島田市だけならそれほど問題ないのだから、近隣で言うと藤枝等の方が幅広く仕事を選べる、という魅力がある。ただ、3年前、しましんと一緒に市内の企業を回ったりしたのだが、実際に市内の中小企業に足を運んで企業の良さが分かることもある。

また、大学生等は就職活動をするにあたりスマホを活用し、ネットでエントリーしている。島田の企業の魅力を広く伝えたいものだが、我々は立場的にもSNS等は使いづらい。昨年ママ八口を市役所内に設置し、しまいくで情報発信したのだが、同様に情報発信ツールの力を借りてPRすることが出来たら、と感じている。

○K 構成員 資料2の2ページの来年度新規事業として、「豊かな心をもった子どもを育成する」を柱とした施策に多く予算をつけていただいていると感じる。学習支援だけでなく、行動支援をお願いしたい。先日、地域おこし協力隊の阿部さん、加藤さんと会ったのだが、とても地域に馴染んでくれていた。そういった人との係わり合いも大切だと思う。

○L 構成員 以前は拡大、分散していたものが、近年はコンパクトに集合、集中してきている。観光分野では、交流人口、観光客を増やすことが大切だと思う。そのためにはイベントごとを盛り上げなくてはならないが、そのためには、地元の人達が地元を知ることが大切。地元を知り、発信する、そして、外から来た人にはおもてなしをする。そうして人と人が繋がっていくことが、持続的な発展に繋がっていくのではないかと。ICTコンソーシアムの事業についても、絶やさずに続けていくことで、島田市全体が盛り上がっていくと期待している。

○M 構成員 島田市を知ってもらい、その中で横断的に人と人を繋ぐ存在があるとよい。地方創生においては、「繋ぐ」「知ってもらおう」というのがキーワードになる。

○O 構成員 本日、小学校6年生の娘が卒業式を迎えた。新聞を購読する人は減っているというが、75%の親が、子どもに新聞を読んでほしいと思っている、というアンケート結果がある。将来人の役にたつて欲しい、幸せに生きて欲しい、という気持ちがあるのではないかと。子どもに対する想いは地域にもあり、地域ぐるみで子どもたちを何とか守ってあげたい、という気持ちは大人がみんな持っているのではないかと感じる。私の住む地域では、週2回駄菓子屋をやっており、別の曜日では寺子屋だとかを行っている。地域課題を地域で解決できるような場があれば、より地域愛も深まるのではないかと。

- オブザーバー 国、県、中部地域でも、まち・ひと・しごと創生総合戦略を掲げ、実行している。地域が絞り込まれ、深く入り込むほど課題は具体化されていると感じる。
- 静岡県では、ふじのくにパスポートを今年から始めた。どこにいても、いくつになっても、静岡を思い出すことができる。今は転職する人も増えており、県では大学1～2年生を対象にインターンシップも実施し、特定の会社ではなく、市内の様々な企業を見てもらい、大手企業から中小企業まで知ってもらっている。
- 移住定住についても、東京県内でのPRに力を入れており、中部地域だけに絞ったPRも行っている。
- 空港賑わい交流拠点施設、内陸フロンティア等を活用し、交流人口を増やしていけたらよいと考える。
- D構成員 先日SDGsのセミナーがあり、勉強したのだが、SDGsとは地方創生そのものだった。この文言は3～4年前から国の政策には入っているのだが、中身が中々分からない。静岡市では、SDGsを活用しガールズコレクションを開催し、これについてのTwitterでのツイートが1億人を超えた。中身が分からなくても、カッコイイと思わせると興味の無かった人も巻き込まれていき、何かやらなきゃ、と個人を動かすことができる。
- SDGsは、使い方によっては、何かに一般人を引き込む時に使えるものだと思う。今後、様々な事業等にはめ込んでいく必要があるのではないか。
- 染谷市長 ありがとうございます。これからも、ここにおられる皆様方の「気づき」を活かし、一つの「気づき」ではできないことが、いくつもの「気づき」を重ねることによって、連携することによって、新たな取組、新たな発想、新たな事業ができるようになってくると思いますので、ぜひご協力をお願いしたいと思います。
- ありがとうございました。
- 染谷市長 それでは、次第5 その他といたしまして、事務局から資料6「平成31年度島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を御説明させていただきます。
- 事務局 平成31年度まち・ひと・しごと創生市民会議の開催、第2期総合戦略の策定について説明した。
- ・総合戦略の策定に係り、開催回数が増える旨を説明
 - ・平成31年度のおおまかなスケジュールを説明
(現時点で、8月、11月、3月に開催予定)
 - ・詳細は追ってお知らせする旨を説明

○染谷市長 ただいまの説明について、質疑、御意見等はありませんか。

＜質疑・意見なし＞

○染谷市長 ありがとうございました。
皆様のご協力により、本日の議事につきましては、全て終了いたしました。
それでは会議の進行を事務局へ戻します。

○市長戦略部長 染谷市長、ありがとうございました。
以上で、予定をしていました議事、報告等はすべて終了いたしました。
平成 31 年度の市民会議への参画、構成員の確認及びスケジュール等につきましては、4月に入りましたら、改めてお知らせをさせていただきたいと思
います。
それでは、以上をもちまして「平成 30 年度第 2 回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を閉会とさせていただきます。
本日は、御多用の中、御出席いただきまして、ありがとうございました。あ
りがとうございました。

以上